



野洲
やなむねがわ
NPO法人家棟川流域観光船

森、川、里の再生で琵琶湖を守り 観光振興、地域活性化へと導く。



左上)ヨシの植栽イベントで行われた「ヨシ笛コンサート」 左下)豊かな森づくりも琵琶湖再生には欠かせない活動 右)グリーン・ツーリズムとして定着した「エコ遊覧船巡り」

「森、川、里とのつながりの中から琵琶湖の環境を守る」。
そんな思いで琵琶湖に注ぐ家棟川に清らかさを取り戻すためのエコ遊覧船ツアーを営み、
湖岸でのヨシ帯再生や家棟川源流域の森づくりに取り組む「住民の力」が野洲にある。
琵琶湖と共に生きる漁業従事者を中心とするNPO法人家棟川流域観光船だ。

琵琶湖の水は
きれいになったように見えるが
まだ再生していない、汚れている

— NPO法人家棟川流域観光船の母体である「びわ湖の水と地域の環境を守る会」が2004年に生まれた背景を教えてください。
その頃の琵琶湖は、20年ほど前の赤潮が発生した頃から比べると表面上はきれいになっていました。しかし、漁師として琵琶湖と日々接する私たちにはまだまだ「多様な生き物を育む力」を取り戻せていない、本当にきれいだった頃の姿ではないかと思っていました。さらに世間が「琵琶湖はきれいになった」と安心していることにも危機感を覚えました。



イベント参加者に琵琶湖の現状を説明する松沢理事長

—そこで、地元中主漁協の有志の方々を中心に「びわ湖の水と地域の環境を守る会」を結成されたんですね。
菖蒲浜の清掃やヨシの再生に取り組み始めたのですが、「注ぎ込む家棟川をきれいにしないと琵琶湖もきれいにならない」と考えました。さらに琵琶湖の再生には、「家棟川の源流がある山と森、流域の里とのつながりが大切」と活動の範囲を広げていきました。

家棟川に屋形船を浮かべて 現状の川の実態を知ってもらう

—どうして家棟川流域観光船事業を始められたのですか？
一級河川の家棟川は源流から河口まですべて同じ流域(野洲市)を流れる全国でも珍しい河川です。都市化に伴ってゴミの不法投棄や濁水の流入などが深刻化し、いくら清掃しても追いつきませんでした。この状況は当然、琵琶湖の環境を損ないます。私たちは「流域の皆さんに川の実態を知ってもらうことから始めよう」と考えました。

—当初から現在のような有料の遊覧船を運営していたのですか？
いいえ、当初は屋形船を川に浮かべ、私たち漁師が櫓を漕ぎながら「語り部」となって、昔の家棟川の美しさを語り聞かせる啓発活動を目指しました。流域の

自治会や子供会等の皆さんを無料で「エコ観光船」にお招きして、家棟川が琵琶湖の環境といかに密接に関わっているか、その大切な川が今どんな姿なのかを、その目で知ってもらいました。ただ、それまでの清掃ボランティアと違い、この活動には経費が必要なので、国などからの補助金を得るよう07年に「NPO法人家棟川流域観光船」を立ちあげました。

—「エコ観光船」の成果はありましたか？
期待以上でした。3年ほど続けると、ゴミの不法投棄はほとんどなくなり、目に見えて川の環境は改善されました。ちょうどその頃から、私たちは活動の持続を図るために収益性のある事業モデルを模索しはじめました。流域地域以外の人にも家棟川での取り組みを知ってもらう意図も込めて、有料の「エコ遊覧船巡り」を始めました。河口から往復4キロの航路を楽しみ、鮎やビワマス、フナなど地産食材による「漁師料理」を堪能できるグリーン・ツーリズムです。これが非常に好評で、昨年は延べ約800人の方に乗船していただきました。

森、川、湖の連携を取り戻す ヨシ群生の再生も図る

—「山と森、川と里とのつながりの中の琵琶湖再生」への数々の取り組みを

同時進行しておられますね。
家棟川源流域での「森づくり」も10年間ほど継続中です。豊かな森の落葉が腐葉土となり、川に流入して、流域や湖の生物多様性を育みます。自然のメカニズムの大きさと大切さを感じます。

—ヨシ群生の再生は計画通りに進行していますか？
なかなか思うようには進んでいません。当NPOでは毎年冬にポット苗とヨシマットの2方式で植栽を実施していますが、当初想定より6割程度でしかありません。ただヨシは一度根付くと強固で、波浪から浜を守る護岸という、とても重要な役割を果たすのです。波や風がきつい湖岸ほど多く自生していて、現在でも琵琶湖が琵琶の形を保っているのはヨシのおかげなのです。

グリーン・ツーリズムの成功を 野洲の観光振興につなげる

—昨年、貴法人の活動が表彰されたそうですね。
はい、水環境保全活動やエコ遊覧船巡りなどの活動が評価されて、公益社団法人日本水環境学会から「平成26年度水環境文化賞」をいただきました。これは大変光栄で今後の活動の糧とし、さらに大きな輪に広がっていきたくと考えています。



「平成26年度 水環境文化賞」の授賞式の様子

—最後に今後の展望を教えてください。
「エコ遊覧船巡り」がある程度の成果が出てきているので、それを核にした野洲の観光振興を考えています。その一歩として中主地区の有志を中心に協議会を設立し、オートキャンプ場の設備を持つマイアミ浜から菖蒲浜にわたる湖岸ゾーンと、家棟川流域ゾーンをリンクさせて、広域的な観光エリアを形成できないか検討を始めています。菖蒲浜あたりに「湖の駅」と呼ぶべき多目的施設の設置なども構想し、野洲の観光スポットになればと考えています。

NPO法人家棟川流域観光船

▼野洲市菖蒲262
http://www.yanamunegawa.org/



理事長
松沢 松治氏